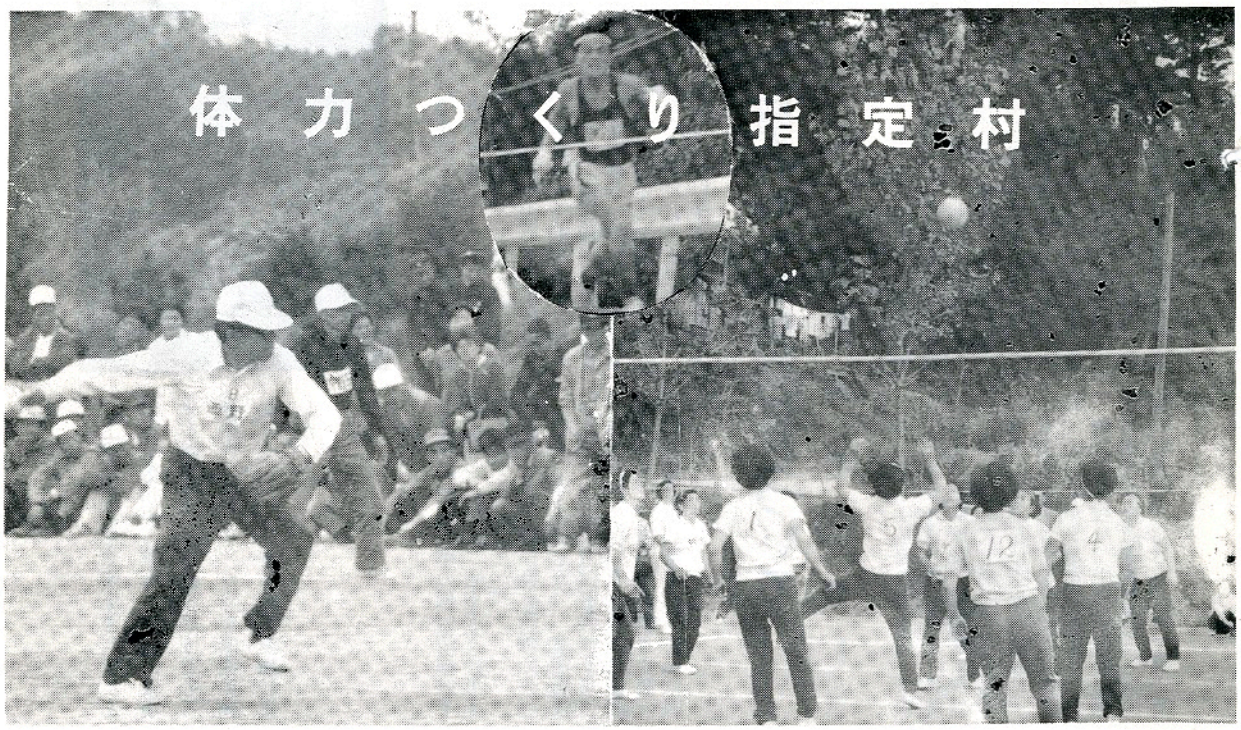
広報
さめがわ

1970
10月号
No. 203
編集兼発行
鮫川村総務課
塙町・佐藤印刷所



―― スポーツの秋 ～ 盛大に村民体育大会 ――

体力つくりの村に指定された鮫川村では、去る10月10日の体育の日に、「ソフト大会」、「バレー大会」、「駅伝競争」と県と共催で「みんな楽しく歩こう鮫川大会」を開催しました。

ソフト19チーム、バレー15チーム、駅伝6チーム、それに歩こう大会には富田県民室長(代理)はじめ600名の村民が参加しました。

お父さんたちが闘志をぶつつけ合うソフト。お母さん娘さんたちの技の応酬で競合するバレー。少年から青年へと力走してバトンタッチする駅伝……各会場とも終日熱戦が展開されました。

☆ 結　果

◉ソフト　優　勝　父ちやんチーム（中　野）
〃　準優勝　西野Bチーム
◉バレー　優　勝　渡瀬Aチーム
〃　準優勝　西野チーム
◉駅　伝　優　勝　西山区
〃　準優勝　中野区
〃　3　位　西野区

☆10月のこよみ☆

1日　統一祭礼、交通事故ゼロの日、共同募金
3日　鮫川村消防の日、鮫川村消防団秋季検閲
10日　村民体育大会、みんな楽しく歩こう鮫川大会、目の愛護デー
15日　交通安全パレード
17日　貯蓄の日　20日　新聞週間
24日　国連の日　27日　読書週間
◉6日～15日　全国交通安全旬間
◉20日～24日　法令講習会（村内5ヶ所）

今月の人口

人口	6,702（＋3）
男	3,393（＋4）
女	3,309（－1）
世帯	1,214（＋1）



工場廃水などで汚染されることのない鮫川の上流も、沿岸に繁茂する雑草潅木が水流を妨げるので新宿の勇士（?）たちが濁流に胸までつかつて清掃作業を実施しました。

◉火災シーズンになりました。
心の用心〜火の用心
☆いよいよコタツを用いる季節となりました。火の元には十分注意して下さい。
◉石油コンロやプロパンガスの取り扱いには特に御注意を!!

昭和四四年度決算について

村長　石田卯子八

（42）

昭和四四年度の一般会計決算は去る九月の定例村議会で全会一致認定されました。

年度中には、青生野小学校舎の火災復旧建築工事や統合中学校舎の第一期建築工事などがあり、財政運営は決して容易ではありませんでしたが、村民皆様の協力のもと、計画された他の諸施策とともに概ね順調に消化することができたことは、深く感謝にたえないところであります。

歳入　二八八、五六五、五〇一円
歳出　二六四、八二四、五四一円
差引残額は二三、七四〇、九六〇円で内一二、三八八千円は、統合中学校舎建築費中の、昭和四五年五月まで工事を繰越して完成した繰越明許費で、その残額の一一、三五二、九六〇円が実質収支の繰越額であります。

この実質収支額は、予算額の三・八五%に当り、この年度も適度の黒字で出納を閉鎖できたわけであります。

歳入の村税は、二二、〇二五千余円で、歳入に占める比率は七・六%、前年の九・七%より下廻りましたが、村税総額では対前年比六・五%の伸びを示し、一〇〇%の納入率であることは、毎年のことながら感謝にたえません。

財源の半に達する地方交付税は一三一、二六二千円で、歳入の四五・五%に達し、前年に比し普通交付税で三一、七四一千円を増し特別交付税の増八九九千円を加え伸び率は三三%を超えました。

国、県支出金は合せて六〇、六四七千余円で、二一%を占め、重要な財源となつております。

村債は二七、九〇〇千円で、九・七%を占めましたが、将来住民の負担に帰する率の低い辺地債や減税補てん債を二七%近く許可されたことは幸でした。

歳出では、教育費が最高で八六、三七六千余円となり、歳出総額の三二・六%に及ぶ膨張ぶりです

これは青生野小学校舎の火災復旧再建費と、統合中学校舎の第一期建築費が重つたことが主な原因です。

青生野小学校舎の火災は、まことに不幸なでき事でしたが、再建工事は、附属施設、設備費を含めて一四、六八五千余円で五月着工し八月一杯に概ね完成しました。

財源も火災共済保険金と見舞金等で大部分がまかなわれました。

統合中学校は、中学校対策協議会の慎重な検討審議を経て、壇の岡が敷地に決定され、第一期工事として一二教室廊下便所等一、五七三平方m鉄筋コンクリート三階建の校舎建築を行いました

事業費総額五六、七一四千余円の内、三月末出来高支出額は三六、六〇六千余円で、残額は昭和四五年度へ繰越明許費とし五月末に工事は完了しました。

農林水産業費は、二二・三%でこの年度には林業構造改善事業が行われ、二〇、三二五千余円で大型林道二線、林構部分林素材生産施設の整備などの事業が完成しました。

近年相次ぐ高率のベースアップなどで、国も地方公共団体も人件費が増高し、財政構造が硬直化の傾向にあると心配されていますが、わが村の人件費は二二・一%で、全国類似団体の二四・三%に比して低く、投資的経費四六・八%消費的経費四三・五%で全国の平均値よりは優位にあります。しかし今後の重要な課題として、十分研究と対策が必要であります。

駅伝競争で鮫中優勝!!
中学生駅伝郡大会終る

去る十月三日に中学校対抗駅伝競争郡大会が塙町米山下から矢祭町東舘間（三二km）で行われ、鮫川中学校が一時間四七分四二秒（新記録）のタイムで堂々優勝し県大会に出場することになりました。

（区間新記録鮫中四名）

おめでた

八月
官代　宗田好子　父豊

九月
道少田　本橋美保　父隆宏
青生野　棚井正司　〃朝己
青生野　中島三男　〃文雄
摺合　芳賀一博　〃貞夫
越虫　藤田君江　〃美喜男
馬場　鈴木忠　〃正記

おくやみ

九月　世帯主
青生野　岡部栄　53才　タカ
内ケ竜　蛭田福太郎　60才　一二
木之根　山形武　70才　美保
鍛治平　坂本美喜　45才　イキ
中沢　矢吹トメ　71才　兼光
広畑　松本啓寿　70才　啓助

土地改良区の役員改選

鮫川村土地改良区の役員（理事及び監事）が九月九日を以て任期が満了になつたので総代会を開き次のとおり役員を選出しました。

理事　緑川　操（西　野）新
〃　須藤　広美（〃）〃
〃　関根　博（西　山）〃
〃　鈴木　市夫（中　野）〃
〃　矢吹　清敏（〃）〃
〃　鈴木　源義（東　野）〃
〃　船木　操（富　田）再
〃　坂本　義利（〃）新
〃　藤田　正行（渡　瀬）〃
〃　森田　森嗣（青生野）〃
監事　生田目幸次郎（西　山）新
〃　吉田　義一（東　野）〃
〃　小松　一郎（渡　瀬）〃

又理事会を開き理事の互選により理事長に船木操氏が再任され、副理事長に矢吹清敏氏が選任されました。

鮫川史（23）

赤坂中野・八幡神社新建の時代領主と斉主

国島義広

赤坂中野八幡神社は前九年の役天喜五年八幡太郎源義家の父頼義が戦勝祈願をして池の端に（杉山氏宅東の山際）新斉、其の後天文四年に今の地に遷すと口碑に伝ふ又斉須初吉先生編の村史には、慶長九年四月赤坂下総守が今の池の端より移し鬼門塞神とすと書かれて居る。然し赤坂氏は慶長五年九月既に亡び赤坂三千石は一時会津領に入り、百二十万石加藤嘉明が管し、慶長八発年三月十七日より棚倉領となり、二万八千石にて同十三年まで六ヶ年間、彦坂小刑部岡次が支配し、慶長十三申年より十四酉年まで二ヶ年間は天領代官川西兵九郎が治め、慶長十四年より十九年迄五年間二万八千石で棚倉立花宗茂が管して居る。故に赤坂氏は当時佐竹義宜に仕へ秋田に赴き赤坂郷に居住せざるは明白である。当時は塙代官香西夕雲にて元和元年より同九年までで九年間治め寛永元年常陸古渡一万石より丹羽五郎左エ門長重棚倉に移り築城を命ぜられ、後ち寛永五辰年摂州高槻より内藤豊前守信照が棚倉亀ヶ城二代目の城主として五万石にて移り慶安四年（西暦一六五一年）に赤坂八幡宮を新建すと棟札に明記す。又内藤家文書にもあり

内藤豊前守信照、信良、一信、棚倉在城三代七十七ヶ年間よく管した。因に内藤氏は代々神仏を信仰され、信照は寛永年中宇賀神社を再建し、明暦二年八月甲山天神を中居薬師より移して建立、万治三年丸山八幡神社を建立、蓮家寺光徳寺の梵鐘を寄進し、信良は寛文五年市坂に稲荷神社を再建し寛文八年には赤坂郷菅生薬師（富田村）の菅替修覆もしている。

又一信は元録十五年十月一日三十三観音を堂とも寄進等の記録あり、筆者は県より埋蔵文化財及び遺蹟調査員を命ぜられ金沢次長と共に八月十二日赤坂中野八幡神社を調査した結果、左の如き棟札を見る事が出来た。

八幡神社棟札（表面）
聖主天中天　加陵頻伽聖
内藤豊前守内代官、植松次左エ門　名主　小滝文七郎
奉新建八幡宮一宇為天下泰平国土安全当国当処万民豊穣也
哀愍衆生者　我等今敬礼
奥州白川郡赤坂中野村別当
光明寺二人　芳賀源左エ門
消した痕蹟あり

（裏面）
東方阿椙多電王　西方主多光電王
梵字十九字　干時　慶安四歳　辛卯　四月吉日
南方設　噌電王　北方穫多末尾電王

此の棟札は特に古く一時お寺か名主が預つていたものと見え、煤のため判読に苦しむ位である。これより見れば慶安四年（西暦一六五一年）今より三百十九年前に赤坂八神社は新建された事疑はず。

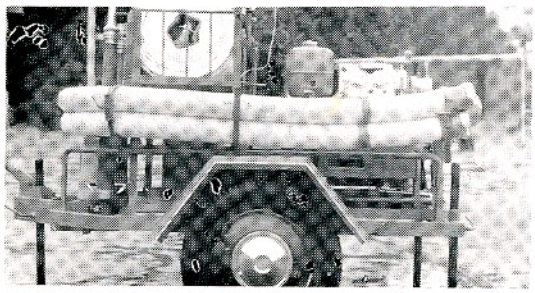
然し前者の説をくつがいす事は忍び難く、遠慮すべきであるが史は努めて公平でなければならない



◉ 交通安全は世界の願いです ◉

運転手も、歩行者も交通ルールを良く守り交通事故をなくしましよう。（各学校を廻り、安全思想の普及に努める安全協会鮫川分会の役員）

——正しい運転、正しい歩行——



消防団第２分団（西山）に新しく配置された35馬力可搬式高性能の小型動力消防ポンプ



全村一斉に行われた道路清掃奉仕作業のひとコマ……西山地内

議会だより

健全財政を堅持
一千百三十五万円を繰越

第九回議会定例会は九月二十八日に招集され、会期を三日間とし次の四議案が審議され三十日にいずれも認定可決、同意されましたなお三十日には社会学級生六十名の傍聴がありました。

◉議案第三十九号　昭和四十四年度鮫川村一般会計才入才出決算認定について

才入総額二億八千八百五十六万五千五百一円、才出総額二億六千四百八十二万四千五百四十一円、差引残額二千三百七十四万九百六十円（残額のうち一千二百三十八万八千円は統合中学校建築費の繰越額）は、四十五年度に繰越されました。

◉議案第四十号　昭和四十五年度鮫川村一般会計補正予算（第六号）

村税百三十三万五千円、国庫支出金三十六万円（県支出金十九万円減）等の財源百五十一万四千円で、白河地方広域市町村圏東白川協議会負担金三十八万九千円、県消防補償等組合負担金三十二万三千八百円、塙工業高校体育館プール、東白農商高校プール建設補助金二十六万円、体力つくり運動費二十万七千円等が補正されました

◉議案第四十一号　鮫川村国民健康保険診療所の使用料及び手数料条例の一部を改正する条例

診断書、身体検査書、その他の文書の手数料が約二倍に引上げられました。

◉議案第四十二号　教育委員会委員の任命について

任期満了による委員一名の任命は村長提案の大字西山字摺合の芳賀理男氏の再任が万場一致で同意されました。



9月末の定例村議会は社会学級生60名の傍聴があつてにぎやか。「われわれの村会議員時代と大分調子がちがうナイ」と元議員さんたちが感想をポツリ

一般質問

次の五議員から村長、教育長、農委会長に質問があり、それぞれ答弁されました。

鈴木　一実議員

①山村振興の事業内容と効果について、②出稼ぎ対策と人間銀行について

吉田　義一議員

①鮫中校舎（青生野教室も含む）閉鎖後における財産の処分について、②一般職員の本年度給与ベースアップと実務の研修について

星　弥義議員

①老人福祉センターの設置について、②診療施設の整備について

岡部　伝議員

①米の生産調整と今後の動向について、②生産調整による減反政策と農地法との関係について、③学校給食施策と運営について、④東電大熊原発に係る固定資産について

大竹　茂議員

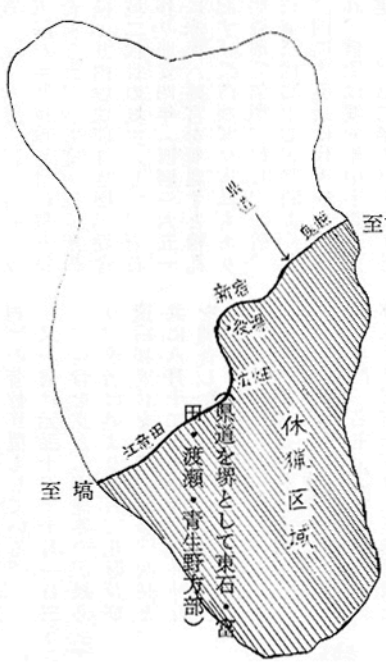
農業行政の今後の方向について

◉自転車に反射テープを貼ろう

自転車事故のうち、夜間自動車に追突される事故が年々増えています。今度県の公安規則の改正により、自転車に反射テープ（スコッチライト）をつけることになりました（一組百円）。各自転車店で取扱っています。皆さんの御協力をお願いします。（反射器のあるものは強制ではありません。）

銃砲等の暴発に注意しましょう

休猟区略図



ハンター待望の狩猟解禁
十一月一日の日の出から

いよいよ狩猟の解禁です。村内のハンターはもちろん、県外等からも多数のハンターがやつて来て山に入るので、山仕事やキノコ狩りの際には危険ですから十分注意して下さい。

なお去る七月に、棚倉林業事務所で村内の休猟区域に二十四羽のキジを放鳥しました。



幼鳥のキジを放つ猟友会員

日本一養蚕家を研修

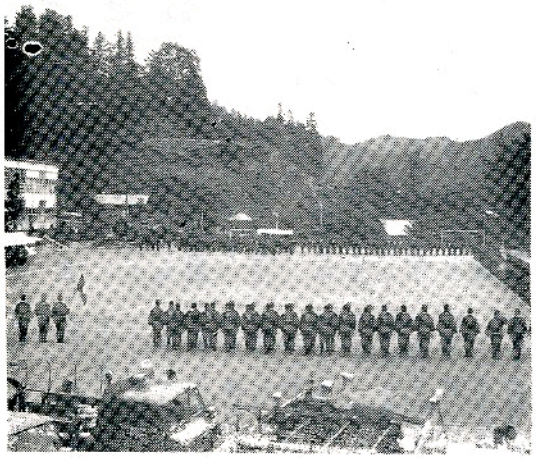
蚕業中堅青年研究会　髙野博光

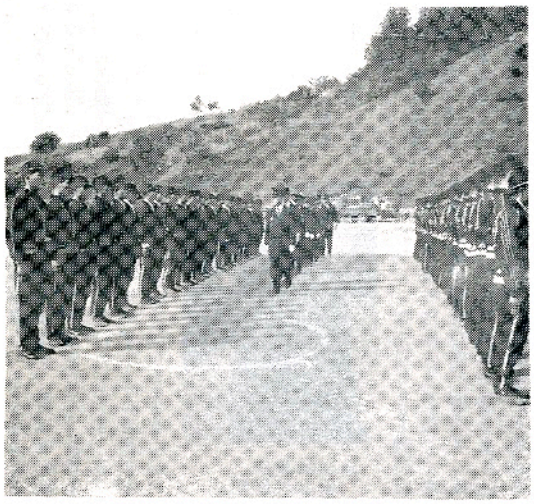
我々研究会員は、今般の蚕業経営の厳しい現況に対応するため養蚕日本一の宇都宮市の鈴木忠男氏の経営を研修いたしました。

研修会出席者二十名で、十月二十三日に出発し、現地研修をした、鈴木忠男氏の桑園の仕立法、育蚕について見学。桑園技術については、土地生産性の向上を図る為の多肥と、機械の利用による、省力化を図り、特に育蚕技術については、多回育に伴う蚕作安定を図る為の蚕舎の完備と、省力の技術の導入、育蚕に対する、機械の利用があり大きな蚕舎を無駄なく使つて居た。

特に、養蚕経営を推進して行くなら、桑園、育蚕に対しアイデアを研究する事も、大切なことである（鈴木忠男氏のアイデアは給桑リフト、条払機、条払自然上蔟法）

以上現地研修を実行した結果、会員は養蚕経営を安心して実行出来る意欲の向上が湧き、現地研修地の鈴木忠男氏の経営を、直輸入して、失敗することなく、当鮫川地内に伴う経営に、会員一同研究し実行して行く決意が出来ました。





数年ぶりで単村独の消防団秋季検閲が秋晴れの10月３日消防の日に、鮫川小学校庭で盛大に行われました。規律厳正で士気の旺んなことは郡内第一の定評があり、石田村長の検閲を受ける各分団の見事な訓練は、村内外の来賓や観閲者に強い信頼感を持たせました。



こんにやく採種ほ場の審査と異品種の抜取り作業

道路交通法の一部改正

＝法令講習会開催＝

10月20日	西野公民館	（午后6時より）
〃 21日	西山公民館	（　〃　）
〃 22日	鮫川村公民館	（　〃　）
〃 23日	渡瀬小体育館	（　〃　）
〃 24日	青生野集会室	（　〃　）

◉ 運転者はもちろん、家族の方も多数受講して下さい。

☆ 歩行者、とくにこどもと老人の事故防止

☆ 飲酒運転の事故防止

☆ 無謀運転の事故防止

こんにやく採種事業

赤坂東野薬貫地区では、県のこんにやく採種ほ場の指定を受け、毎年優良種子を生産し、有利に出荷しています。鮫川農協が事業主体となり、栽培の指導と販売を取扱い、ほ場は一ヘクタールあり、藤田和昭さん外五人が在来種の栽培を担当しています。このほど、県こんにやく試験地、その他関係機関の審査（第二回目）を受け合格し、今年は約八トンの種子を出荷する予定です。

ふるさと

半世紀まえの鮫川村

福島市　坂本六良

村をはなれてざっと四十年になります。昔の不良少年も今は白髪の老年になりました。（不良）だけが変らないでいます。

私の少年時代、村長は須藤千代之助、助役は芳賀金之助、収入役は金沢福次郎、それに書記という名の仕事の人に前田喜一郎、宗田重一さんらがおりました。小松幸一さんもその頃の役場マンで、器用な小松さんは村長がいなければその代理（？）も、書記がいなければその代りもするという人でありました。村長はこのあと芳賀金之助、本郷留蔵、斉藤市之助、松本邦顕、阿久津辰弥、吉田義美、そして現在の石田さんとかわつたわけですが、松本さんから前の人はみんな故人になりました。前田さん、宗田さんも若くて亡くなられました。

今の村長石田卯子八さんも鮫川村の役場は古い人で、たぶん私の十八九、はたち頃の来村と思います。県立農事試験場を出るとすぐの来村とかでその頃の仕事は農業技師、長い白衣が印象に残ります。

この頃は役場の人の数も多く三十人～或はそれ以上もいるのかしりません。それだけ村民に対するサービスが徹底し、よくなつたということでしようが、昔はせいぜい五、六人でありました。むろん三役を含めてのはなしです。五、六人の役場ではずいぶんせわしかつたろうと思うかしりませんが、



富田出身の坂本六良さん

富田の新茶屋なる商店に寄り政談ずきのお辰婆さん以下その頃をみはからつて集る人々と一時間以上も談笑していくのを日課としておりました。どの人も悠々とした役場マンであり、鷹揚な風格を漂わせていたものであります。

私はこんな天下泰平の鮫川村に（危険思想）を持ち込んだ最初のムホン人でありますが、悠揚せまらざる村長以下の人々はこれにひんしゆくするのではなく新思潮の到来とみてほほ笑むのでありました。ウソでない証拠には芳賀さんや船木常一郎さん（この人は宗田さんに代つて役場へ出た人のように思います）は棚倉署の特高刑事が私や私の仲間をつかまえにくると云うことや、逃げ道などを教えてくれたものです。ただ「やるからには命がけ、本気でやらないと笑われるよ」とだけいわれました。

ムホン人の仲間は鈴木芳郎さん、国島義広さん、湯座力さん、矢内嘉続先生、このほかにも数名おりました。矢内先生はムホン人として教壇をおわれた人でありますがクビになつても愚痴ひとつこぼさず、むしろ当然と受取つて潔よく学校をやめた一人であります。

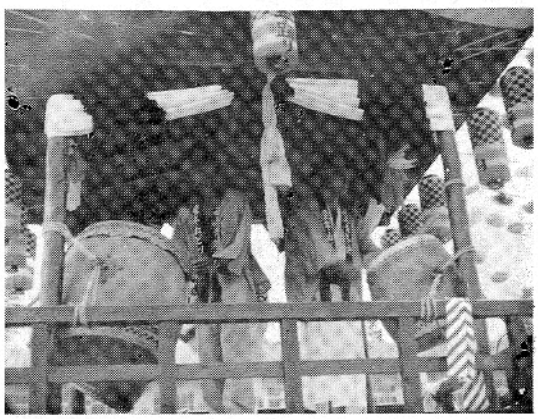
私はこの先生から人間の出所進退というものを教えられたように思います。

往時を回顧して忘れることの出来ないのは私の少年時代鮫川村に「鮫川旬報」という学芸記事中心の定期刊行物があつたことです。社長（に該当する）は青年団長の赤坂徳次さん、主筆は矢内嘉続さん、同人は国島義広さん、小松幸一さん、それからあとで青年科学者石田卯子八さんも入るのでありました。私は小学校五年のとき受持の木村宗喬先生（元塙町教育長）から「おまえは算術はダメだが作文はまたうまいんだなア」といわれて文章道を啓発された男ですが文章を見習うのにこの「鮫川旬報」の編集局はなんとも有難い道場でありました。新聞記者になる決心はここでついたように思います

「鮫川旬報」の編集同人は赤坂社長以下なお健在です。この健在なうちにいつぺん会同したいというわが意をもちながらまだ果すことが出来ません。これはぜひ石田村長にでも音頭をとつていただきたく存じます。（元福島民友主筆「福島県史」近代史担当）



今年の戦没者追悼式慰霊祭は、９月25日鮫川中学校体育館に遺族の方々240名をお招きしてしめやかに執り行われました。遺児代表円谷つや子さんの亡き父の面影をしのぶ切々たる追悼の言葉には参会者の中からすすり泣きの声さえ聞こえました。



――なつかしい盆踊り――

忘れかけていた盆踊り、なつかしい盆踊り。今から10年数前まではだれしもが唯一の楽しみであつたはずの盆踊りですが時代の移り変りは早いもので、レヂヤー革命の影響か？年々人々の心のよりどころが変つて参りました。このたび西山青年会では、こうした時期に住民の意識をリバイバルで高めようとヤグラ（写真）を新しく作り去る９月６日に豊年踊りと称して昔ながらの盆踊り大会を盛大に開きました